

# 奈良県道路整備委員会（第1回）議事録

日時：平成25年10月22日（火）

14時00分～16時00分

場所：奈良県文化会館 第二会議室

## ○都市計画の見直しとの連動について

- ・都市計画道路や土地利用など、都市計画の見直しと道路の計画が相互に連動していくことが大切である。

## ○公共交通基本計画との連携について

- ・「公共交通と道路整備のあり方を一体的に検討」としているが、当委員会と、公共交通を立案する委員会等の連携をどう図っていくのか。
- ・バスなどは道路がないとサービスの提供ができないので、非常に密接に関連する。当委員会の設置期間において、公共交通の委員会と意見交換をするような接点は考えるのか。

（事務局）

- ・公共交通と一体的に検討することは決まっているが、具体的にどういう形で進めるのかはこれから検討する。
- ・通勤、観光、通院等の目的別の道路のあり方については、当委員会の中で先行的に議論できると考えている。次回委員会などでフィードバックすることもできるが、地域交通に対する市民のニーズがあり、公共交通のあり方があって、それを支える道路として何ができるのかということ当委員会で議論できるのではないかと考えている。

## ○公共交通専用レーンについて

- ・通勤、観光などを対象に、公共交通の専用レーンの設置を検討すべきではないか。県で進めているパーク＆ライドも、公共交通専用レーンが整備されれば、より活かされる。将来的にリニアが奈良に停まり、1つの大きなターミナルを整備する際には、公共交通の専用レーンを設けられるような道路整備が非常に大事になるのではないかと考えている。

## ○道路の利用について

- ・どのような道路を整備するのかという議論の次に、道路をどのように使うのかという道路の利用の仕方に着目すべき。例えば、道の駅を使った地域の活性化や、道路整備後のオープンカフェのような賑わいづくりといった、道路の利用の仕方というところも少し踏み込んでどうか。

## ○将来交通量について

- 将来交通量について、どのような考え方をしているのか。

(事務局)

- まだ、新しいセンサスによる将来交通量は出ておらず、どこまで将来交通量を計画に反映できるかということとはわからない。ただ、将来交通量だけでなく、渋滞箇所や現況交通量といったデータや、道路の幅員・線形、鉄道との立体交差状況といったファクト等を考慮し、計画を考えていきたい。
- 今までの道路整備が将来交通量に依存し過ぎていたと言える。交通量の多寡だけではなくて、災害時に道路がどのように機能するかという、道路網の信頼性が非常に重要になってくる。特に南部のことを考えると、たとえ交通量が少なくても、県全体としてのバランスも考え、道路ネットワークの信頼性、連続しているかという連結信頼性、時間的な信頼性を考慮しネットワークを構成していくという視点があってもいいのではないか。

## ○景観に配慮した道路整備について

- 道路を作れば歴史的資源が一部損なわれるようなことになりかねない。例えば、あまり高架橋を作らないといった、観光地の景観に配慮したような道路という観点が必要。

(事務局)

- 奈良の場合は骨格幹線が少ないため、一概に高架橋を否定することはできないが、なるべく奈良の美しい風景や自然環境を邪魔しないような道路を整備すべきと考える。

## ○交通の円滑性について

- 円滑の面から見ると、中和幹線と国道24号とが交差する葛本交差点、中和幹線と橿原バイパスとが交差する土橋南交差点など、恒常的に渋滞が発生している箇所については、立体交差を検討していただきたい。渋滞削減や事故防止にも非常に有効である。
- 交通の目的の柱立てとして、円滑化対策も入れていただきたい。

## ○高規格幹線道路以外の道路整備について

- 日本は、高規格幹線道路は素晴らしいが、高規格幹線道路以外の道路は他国に比べると大きく劣る。高規格幹線道路以外の道路をいかに引き上げていくかが重要である。交通機能を重視する道路は沿道アクセスを制限するなどの対応も検討すべき。

## ○資料の整理方法について

- 資料には、例えば、「通勤・通学利便の向上」の課題については、従来の駅に対する通勤の問題を示す数字を入れてもよいと思うし、「物流の円滑化」の課題には、県外就業者数を入れて整理してもよいと思う。課題を浮き彫りにするような数値とポテンシャルを示す数値を、うまく整理していただきたい。
- 交通目的・種類ごとの論点整理については、いろいろなキーワードが出てきているが、

他のページでも同じ言葉がでてきているので、マトリックス表示するなどして、整合性の整理をしてはどうか。

- 観光の場合は、既にある資源についていかに連携させていくかということを検討する必要があるが、産業に関しては、将来どのような産業を、どのように立地させていくかをまず考えて、それをいかに物流の円滑化につなげていくかを検討する必要がある。

（事務局）

- 物流については、工場や工場団地が南部にたくさんあり、例えば京奈和自動車道が整備されると、もっとポテンシャルが上がるのでは等、立地との関係も重要だと思うので検討していきたい。
- 交通の目的に6つの柱立てがあるが、最終的な計画を書く時は、全体を通して、どういう将来の奈良を目指しているのか、そのために道路はこういう施策が必要になるという流れで書くべき。

#### ○地域ごとの計画について

- 県民は、この計画によって自分の地域がどういう風になるか、自分の地域に対する問題認識をどうされているのか、地域としてみた場合にどういう風に成り得る可能性があるのかについて興味を持つのではないか。日常生活のそれぞれの地域ごとに、計画の姿が見えてくるとよいと思う。
- 県の役割も当然重要だが、基礎自治体の方にも頑張ってもらいたい。県の意図が基礎自治体に十分に伝わることにより、市民、町民の方々に周知できる。

#### ○奈良の潜在的な需要について

- 遷都1300年の時、都市計画学会の国際シンポジウムを奈良でさせていただいた。その時に海外からたくさんお客さんも来たが、その時にやっぱりホテルをとるのに大変苦労し、結局、大阪や京都のホテルをたくさん取って対応した。奈良はポテンシャルがあるけれど、それを活かしていない面がある。また、その時にならまちと今井町をバスでご案内するというまち歩きツアーを組んで、海外の都市計画の研究者の方には大変好評だったが、渋滞にはまってしまいかなり時間がかかった。もうちょっと短縮できれば有力な商品になるのかなということも思った。今回の計画の中でも、顕在化していない需要について戦略的に誘導していく必要がある。
- 主な観光施設や物流の拠点等がどこに配置されているかといったいろんな情報をマップに落として議論してみてもいい。その結果、物流として大事だけれども、観光としても非常に大事であるというように、重なる部分や、逆に相反するような部分も出てくると考える。その重なる部分をどう解消していくかという視点も必要。

#### ○本日の議論のまとめ（委員長まとめ）

- 都市計画道路や土地利用など、都市計画の見直しと整合させていくことが重要。
- 道路整備基本計画と公共交通基本計画とを一体的に検討することは大変よい。委員会に対しても、一体的な検討状況をフィードバックすることを是非考えて欲しい。

- バス専用レーンの設置等、公共交通の利便が増加する道路整備を展開して欲しい。
- 道の駅の活用など、道路の利活用の観点を検討してはどうか。
- 道路計画は、将来交通量に依存し過ぎる傾向。災害時の信頼性、時間の信頼性、連結の信頼性など、「信頼性」の観点も重要。
- 周囲の景観を乱さない道路構造を追求すべき。
- 主要な幹線道路は、立体交差化するなど、交通の「円滑性」について項目を立てるべき。
- 日本の道路は諸外国に比べ、高規格幹線は遜色ないが、それ以外の道路は一気に貧弱になる。一般道でも、交通機能を重視する道路は沿道アクセスを制限するなどの対応も考えられないか。
- 資料にはいろいろなキーワードが出てくるので、マトリックス表示するなどして、整合性の整理を試みてはどうか。
- 奈良県は観光や工業立地について、潜在的な需要がもっとあると改めて思った。これらの需要を顕在化させ、まちづくりを戦略的に誘導していくことが重要。主要施設や観光地分布を県内マップに落とす等により、整理を試みてはどうか。